

第7分科会

幼稚園教育において育みたい 資質・能力の視点から 子どもの育ちを考える

問題提起園 草牟田幼稚園

問題提起者 岩元 直

1 研究課題

子ども理解

2 研究・研修の視点

家庭形態の変化、情報の氾濫、地域環境の変化等子どもたちをとりまく環境は、急激な変化の中にある。子どもたちはこれまで以上に主体的に問題を解決していく力が必要とされる。

そのために幼児期に育むべき「資質能力の3つの柱」が明示された。「知識・技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」の3つである。

どのように学ぶかにおいては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善を図りながら資質・能力を育んでいくことも示されている。

そこで、本園では「資質・能力の3つの柱」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び「5領域」と「主体的・対話的で深い学び」の理解を深め関連を明らかにしながら「3つの資質能力」の視点から子どもの育ちを追求していくことが、テーマ解決への道筋であるととらえた。

☆中略(本園研究紀要に記載)

今回の発表の機会を通してさらに「子どもの育ち」を具体的な保育の場面で把握しながら、日々の保育につながる研究を進めていきたい。

3 本園の研究計画

(1) 研究の目標

ア 「3つの資質能力」「5領域」「幼児期の終わりまでに育みたい姿」「主体的・対話的で深い学び」についての理論分析を行い内容の共通理解と関連性を明らかにする。

イ 資質・能力の視点から見直し・加筆された「5領域」のねらいや内容をもとに、保育の改善を図りながら日々の保育を進めることで育まれる資質・能力(子どもの育ち)について追求する。

(2) 研究の方法

ア 幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を読み込み、内容について理解し、深めていく。

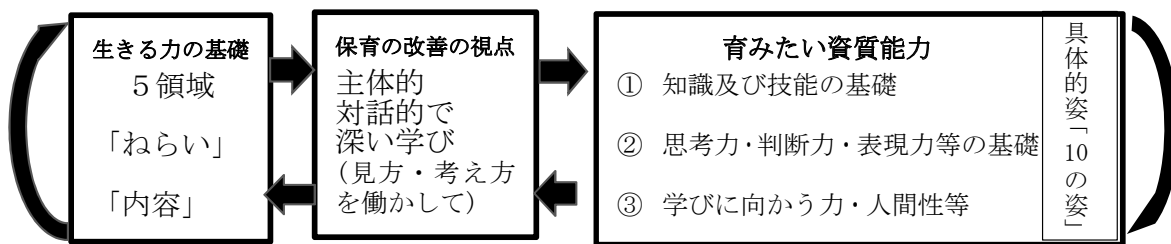
イ 一人一人の職員が実践をもちより具体的な場面(育ち)をもとにワークショップ型の研修を行うことでテーマ解決にせまるようにする。

ウ 「振り返りシート」等を活用して、「学びの過程」や「子どもの育ち」を捉え、実践的な研究を進める。

4 研究の概要について

(1) これからの幼児教育が向かう方向

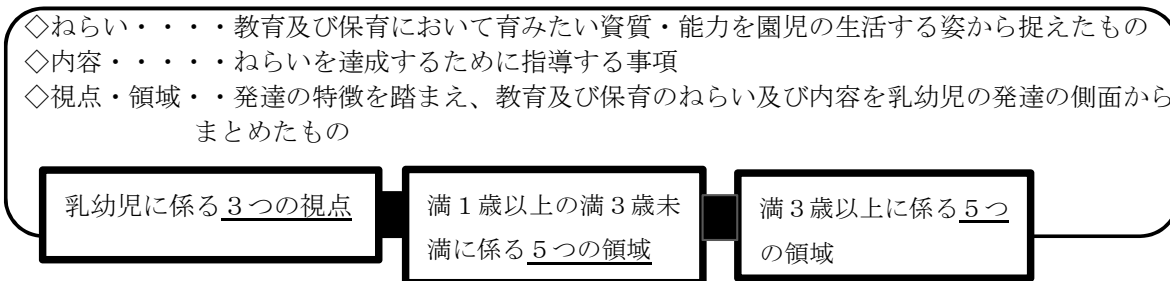
○園児は何を学ぶか○園児はどのように学ぶか○園児には何が育まれるのか



「資質・能力」(子どもの内面と周りの事柄に関わる力)は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校での教育を通して育まれていくものであり、幼児期は、その基礎を培うものである。幼稚園で育みたい資質・能力は、改定に伴い加筆された5領域における「ねらい及び内容」に基づいて「主体的・対話的で深い学び」のプロセス(過程)を通して子どもたちの中に育まれていくものである。

(2) 園児は何を学ぶか(☆詳細な図については、本園研究紀要に掲載)

【3視点(0歳児)・5領域(1歳児～5歳児)の学びの内容】

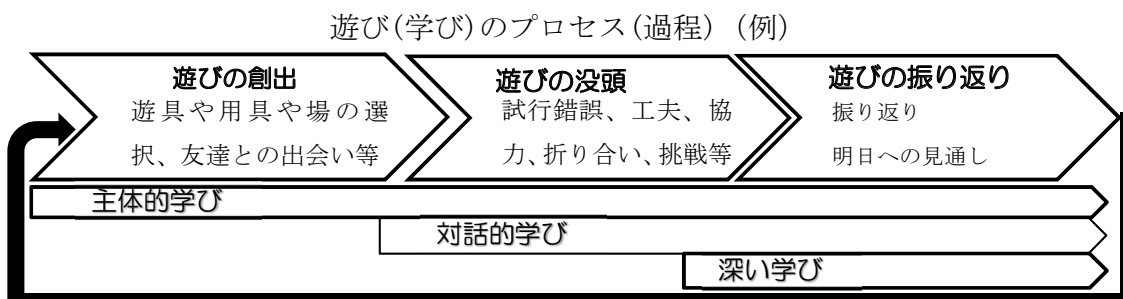


※ 1歳～3歳未満児は、3歳以上と同じねらい内容ではなく、発達の特徴を踏まえたねらいと内容として示されている。

日々の保育では、育みたい資質・能力の視点から見直し・加筆された5領域を念頭において遊びを通した総合的な教育・保育を進めることが大切である。5領域のねらいや内容に基づいて、日々の教育・保育を積み重ねていくことで「育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)が育まれていくことになる。

(3) どのように学ぶか【主体的・対話的で深い学びの視点から考える】

育みたい資質・能力を育むためには、遊びや活動が「主体的な学びとなっているか」、「対話的な学びになっているか」、「深い学びになっているか」という視点で保育を見直すことで3つの資質・能力が育まれることになる。



育みたい資質・能力は、「遊びの創出」⇒「遊びの没頭」⇒「遊びの振り返り」の過程を通して育まれていく。

主体的な学びとは、「砂場遊びで山を作ってみたい、穴を掘ってみたい、川を作ってみたい」など周囲の環境に積極的に働きかけている姿である。

対話的な学びとは、何人かが集まっているところで、お互いに「こうやっているんだ」「こうした方がいいね」など自分の思いを伝え合ったり協力したりして遊びを深めている姿である。

深い学びとは、「水は砂にしみこむんだな」「水がなくなるね」などと生活や遊びの中で見方や考え方が深まる姿である。

(4) 何が育まれるのか(☆詳細な図は、本園研究紀要に掲載)

ア【資質能力の視点から考える】

平成30年版の幼稚園教育要領等までは「心情・意欲・態度」を育むことを向上目標としていた。

今回の幼稚園教育要領等の改訂で初めて幼稚園教育と小学校以降と共通する向上目標が明示された。それが「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」の「3つの資質・能力」である。

幼児教育において育みたい資質・能力は、子どもの日々の活動において「子どもの育ち」として見ることができる。そして、このような資質・能力の育ちを日々の保育の折々に子どもが発揮できるようにしていくことが保育者に求められるものであると考える。

幼児教育によって育みたい3つの柱は次のとおりである。

知識・技能の基礎…遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりすること。

思考力・判断力・表現力等の基礎…遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使いながら、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること。

学びに向かう力・人間性等…心情・意欲・態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)がある。これは、幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたもので、5歳児後半に育まれてくる姿(育ち)を10にまとめたものである

イ【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の視点から考える】

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり
⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

幼稚園教育における5領域の「ねらい」及び「内容」と「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」の関連を次のように捉える。

- (1) 「5領域」のねらい及び内容に基づく活動全体を通して「資質・能力」が育まれる。
(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)は、幼稚園の活動全体を通して幼児期の終わりまでに育まれる資質・能力の具体的な姿(育ち)である。
(3) 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿と5領域のねらいや内容とを関連付け、日々の保育を行うことも大切である。
(4) 5領域を可視化し、保育者が計画・振り返りに活用しやすくする指標である。

本園では、幼児の発達や学びの個人差に留意しつつ、幼児期の終わりまでに育ててほしい幼児の姿を具体的にイメージして、日々の保育を行っている。

(5) 「3つの視点」「5領域」、「資質・能力(10の姿)」との関連図



5領域は、今回の改訂で「育みたい資質・能力」の視点で見直しがなされ、乳幼児期に「健やかに伸び伸びと育つ」など3つの視点で内容を捉えること、また、満1歳から満3歳未満、満3歳以上に關わる内容が改善・充実された。また、資質・能力の育ちは、各成長過程においてその年齢なりの具体的な姿（育ち）として現れてくるものである。10の姿は幼児期の終わりまでに育ててほしい姿であるが、子どもの成長過程での「育ち」として次第に現れてくるものである。

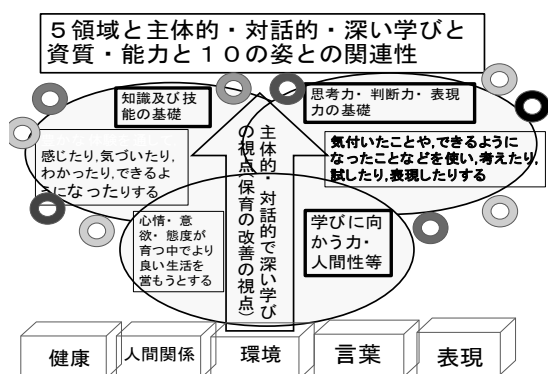
(6) 資質・能力と5領域との具体的な関連表

3つの「資質・能力」を用いて子どもの育ちを捉える観点として、領域ごとに「ねらい及び内容」に使用されている言葉から具体的な子どもの姿となるものを抜き出し、その言葉が3つの「資質・能力」のうち、どの要素に該当するか整理し、表にしたものが、次の表である。

(☆完全な表は研究紀要に掲載)

領域	【知識・技能の基礎】 豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。	【思考力・判断力・表現力等の基礎】 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、表現したりする。	【学びに向かう力・人間性等】 心情・意欲・態度が育つ中でよりよい生活を営もうとする。
健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康、安全、体を十分に動かす 生活に必要な習慣や態度 生活の仕方を知る 危険な場所や危険な遊び方が分かる 	<ul style="list-style-type: none"> 明るく伸び伸びと行動する 見通しをもって行動する 先生や友達と触れ合う 活動に親しみ楽しむ 生活の場を整える 災害時などの行動の仕方、安全に気を付けて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 充実感、進んで運動する 安定感を持って行動する 進んで戸外で遊ぶ 食べ物への興味や関心をもつ 身の回りを清潔にする 生活に必要な活動を自分でする 健康に関心を持つ 食べることを楽しむ
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活における望ましい習慣や態度 よいことや悪いことがあることに気付く きまりの大切さ 	<ul style="list-style-type: none"> 自然などの身近な事象を取り入れて遊ぶ 身近なものを大切にする 比べる 関連付けたりしながら考える 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事象に対する興味関心をもつ 生活に取り入れる 様々な物の性質や仕組みに興味や関心をもつ 簡単な標識や文字などに関心をもつ

(7) 5領域、主体的・対話的で深い学び、資質・能力、10の姿の姿の関連図



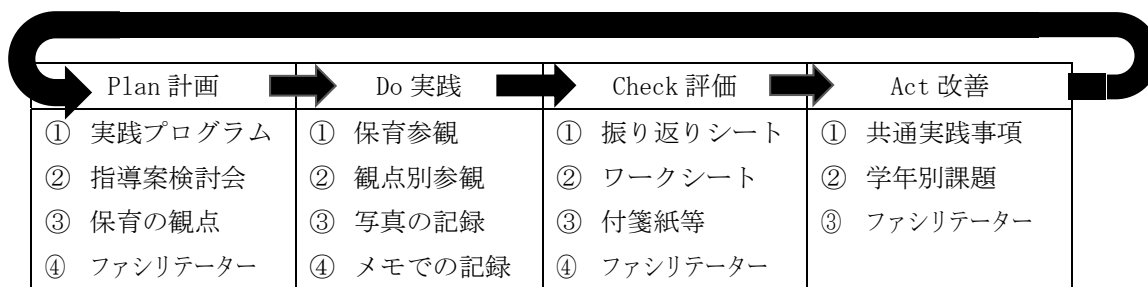
この図は、「資質・能力」と「10の姿」、「5領域」、「主体的・対話的で深い学び」との関連を示したものである。

5領域のねらいや内容は、資質・能力の視点で見直し・加筆されているので、それらを踏まえて3つの視点・5領域のねらいや内容にそって日々の保育を進めていくと3つの資質・能力が育まれていくことになる。

その資質・能力の中で幼児期の終わりまで育ててほしい姿として抽出・整理したものが10の姿である。

したがって、資質・能力の視点からの子どもの育ちは、5領域のねらいや内容を主体的・対話的で深い学びの視点で改善しながら進める日々の保育の中での育ちであると捉えている。

5 本園の研究推進フローチャート



ファシリテーターのもと、参加者一人一人が自分の考えやアイデアを付箋紙に書き出したり、ワークシートに観点別に貼り付け、話し合ったり、保育中の子どもの活動場面について記述した「振り返りシート」で話し合いをすることで全員参加型の研修会になっている。

6 研究の実際

(1) 子どもの学びの姿から環境構成や保育者のかかわりを考える。

年少組が小麦粉粘土を題材にした活動である。(☆指導案は本園研究紀要に掲載)

この保育では、これまで研究を進めてきていた「主体的・対話的で深い学び」の視点で保育研究をした。保育参観では、子どもの活動の姿(育ち)を写真撮影したり、付箋紙に書き込んだりした。事後研究後に一人一人が次のような振り返りシートを作成し、今後の保育に生かすことにしている。

【振り返りシート：小麦粉粘土で遊ぼう (年少児：27名)】

1 研修テーマ及び内容

「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして

2 研修内容

子どもの学びの姿から、環境構成や保育者のかかわりを考えよう

3 研修の振り返り



10の姿の振り返り

- ・ 小麦粉粘土で形を作っていく、見立て遊びをしている友達に対して「きのこ！」と大きな声で答えていた。
(豊かな感性と表現・言葉による伝え合い)
- ・ 小麦粉に触れ、感触や匂いなど手についた素材をじっと見て、小麦粉の性質を確かめていた。(思考力の芽生え)

子どもの学びの姿 (主体的・対話的で深い学び)

- 導入を見て、「楽しそうだな」「早くしたいな」という思いが芽生える。小麦粉粘土を作る段階で、材料の小麦粉が出てくると、どんな感触なのか、これがどうなっていくのか知ることに関心を持っていた。
『水を入れる』『混ぜる』過程を見通して、自分が思う完成形に繋げているようだった。
- 粘土の感触を楽しみながらイメージしたものを作ったり、カップに粘土を重ね入れていき、「うしろからみると、きれいだよ」と思っていなかった発見に喜ぶ子どもの姿があり、それを友達や先生に伝え、遊びを楽しんでいた。

子どもの学びの姿から

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のための環境構成や保育者のかかわりの工夫

- (主体的な学び) 歌やペープサートで導入をすることによって、子どもたちの興味を引きつけ、子ども自身が意欲を持ち、今日の活動に対して、考えたり予想したりして楽しみながら活動に繋げていた。
- (対話的な学び) 小麦粉粘土が出来上がる前の、小麦粉に触れる時間を設けていた。水を加える前後の感触の違いを知り、「ふわふわ」「べちゃべちゃで、なっとうみたい」など、子どもの思いを引き出し、保育者が認め、共感することで自分の考えを深めていくことが出来ていた。
- (深い学び) 廃材を準備することで、発展した遊びに繋がる。ごっこ遊びなどの経験から、粘土の形を自由に換え、想像を形にしながらか遊ぶ工夫をしていた。別の男児は、廃材に粘土を積み上げていき、「どうなるかな」とワクワクしながらイメージしたものを作り上げ、友達や先生に認められ満足そうだった。

* 考察*

以上のことから、活動を通して、環境構成や保育者のかかわり方の重要性を振り返ることができた。子どもたちの実態に合う活動を設定、子どもの実態に合う・発展する可能性のある教材の用意、保育者の言葉かけ・見守り・一緒に遊び、関わることによって、子ども自身がさらに遊びたい・もっと知りたい・友達や先生に伝えたい思いが生まれる。環境構成・保育者の関わり方により深い学び(遊びへの追求)へとつながっていくことが考えられる。

次の表は、研究保育後、保育提供した保育者自身が「3つの資質・能力の視点で子どもの姿(育ち)をまとめたものである。

◇(1)の保育実践から「3つの資質能力」の視点で保育者自身が子どもの姿を振り返る◇

資質・能力	子どもの姿
<p>「知識及び技能の基礎」</p> <p>遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分ったり、何ができるようになったりするのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小麦粉の感触と水を入れた後の小麦粉の感触の違いに気付いた。 ・ 小麦粉粘土の色の混ざり合う楽しさを味わう姿が見られた。
<p>「思考力・判断力・表現力等の基礎」</p> <p>遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、どう試したり、工夫したり、表現したりするか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めは小麦粉が手につく感触を嫌がっていたが、こねることにより、次第に手から離れていくことに気付いた。 ・ 身近な廃材を使うことにより、具体的なイメージの中で表現し、遊びを展開することができていた。
<p>「学びに向かう力・人間性等」</p> <p>心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営もうとするか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達を作る様子を見ながら、廃材を取り入れて、遊び方を真似しながら工夫する姿が見られた。 ・ 興味を持つことで、集中して活動に取り組む園児が多かった。

考察

- ・ 保育の中で子どもの発言やつぶやきの中に、子どもの学びや育ちの姿があるということに改めて感じた。心動かず体験の中で主体的に取り組むことで、学びにつながっていると思う。
- ・ 保育したことを3つの視点で振り返ることで、子どもの姿を考えたが、分類していくことに難しさを感じた。子どもには様々な育ちがあるということ、保育者自身が再度学びを深めていくことの大切さを感じた。
- ・ 保育案を作成する段階で、3つの視点を意識しながら、保育を組み立てていくことも今後、考えていこうと思った。

(2) 子どもの学びの姿から、環境構成や保育者のかかわりを考える。(指導案は研究紀要に掲載)

年中組で「好きなものはなあに」の保育実践である。保育参観後に参観者一人一人が「振り返りシート」を作成した。全員の振り返りシートにそれぞれが目を通すことで、子どもの育ちや保育の在り方等が「見える」ようになり、日々の保育に生かしている。

- 本時の活動：好きなものは なあに。 (R1. 10. 31)
- ねらい：自分の好きなものや興味があるものを、道具を使って自分なりに表現する。(表現)
クレパスや絵の具を使って、色の混ざりや重なりを楽しむ。(表現)
友達と好きなものを教え合ったり、描いたものについて話したりしながら、表現を楽しむ。(言葉)
- 内 容：自分の好きなものを、絵の具やクレパスを使って表現する。
自分が表現したものをグループ分けし、自分が描いたものの仲間を知ることができるようにする。
表現したものを貼りだし、友達の好きなものを知る。

【振り返りシート：好きなものは なあに (年中児：27名)】

1 研修テーマ及び内容

「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして

2 研修内容

子どもの学びの姿から、環境構成や保育者のかかわりかたを考えよう

3 研修の振り返り



10の姿の振り返り

言葉による伝えあい

- ① 相手の話の内容を注意して分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して、教職員や友達と心を通わせる。

豊かな感性と表現

- ① イメージを持つ。

子どもの学びの姿 (主体的・対話的で深い学び)

R君「何描いているの？分かったひまわりだ！」
Aちゃん「そう！あたり！」と言って嬉しそうに続きを描き進める。
Aちゃん「R君は何描いているの？」
R君「僕は恐竜を描いているの。ここが口で、ここがしっぽなんだよ」
Aちゃん「そっか。いいね！」
その会話を聞いていたY君。
Y君「それかっこいいね。」
ただ、塗りつぶしているように見えたR君の絵を友達に褒めてもらい、自信にあふれた表情になるR君。

*** 考察***

- ・目的をもって保育を参観することで、主体的に参観することができ、子どもたちの言葉や表情、心が動く瞬間など、細やかに見ることができた。
- ・3つの資質能力や主体的・対話的で深い学びについて子どもの姿を目の前にして考えることで、具体的に捉えることができるようになってきたように感じる。

◇(2)の保育実践から「3つの資質能力」の視点で保育者自身が子どもの姿を振り返る◇

資質・能力	子どもの姿
<p>「知識及び技能の基礎」</p> <p>遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分ったり、何ができるようになるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵の具を使うときは、約束事を守ることや、描き方で太さが違うことに気付いた。 ・ 絵の具で描くと太くて絵がつぶれてしまったが、全て塗りつぶして、食べ物の断面を表現するなど工夫していた。 ・ 友達が描いている好きな物が、自分の好きな物でもあることに気付いた。

(☆全体の表は、本園研究紀要に掲載)

*** 考察***

- ・自分の保育を3つの資質能力の視点で振り返ったことで、子どもたちの活動が、どのような育ちがあるのか、見つめることができた。
- ・3つの資質能力に分類するのは難しく、また、必ずどれか一つに当てはまることはできないと感じた。
- ・分類をしながら、他の項目にも当てはまる点を見つけることができ、3つの資質・能力の視点は重なることも多いと感じた。

(3) 0、1歳児の保育から3つの資質・能力の視点で子どもの育ちを考える

○本時の活動：ラーメンを作ろう	(R2. 2. 20)
○ねらい	
0歳児：保育教諭や友達と一緒に制作を楽しむ。自分や友達の出来た作品を見て喜ぶ。	
1歳児：保育教諭の話聞き、自分の言葉で思ったことを伝えることができる。 紙や毛糸などの素材に触れ、自分なりに表現しようとする。	
○内容	
0歳児：両面テープを剥がし、具材を自由に貼る。	
1歳児：自分で両面テープを剥がし、好きなところに具材を貼る。	

【振り返りシート：ラーメンを作ろう(0歳児：6名 1歳児：9名)】

1 研修テーマ及び内容

幼稚園教育で育みたい資質・能力の視点から子どもの育ちを考える。

2 研修内容

子どもの姿を資質・能力の3つの視点から捉え、どのような育ちがあるか考えよう。

3 研修の振り返り



<知識及び技能の基礎>

- ・保育教諭に教えてもらい、1歳児を見ながら、材料を受け取りに並んでいた。必要な材料をおぼんに乗せてもらっていた。



<思考力、判断力、表現力等の基礎>

- ・両面テープの紙を引っかいたり、保育教諭と一緒に紙を掴んだりして、上手に剥がすことができた。剥がした後の紙を、また上からつけようとしていた。

※写真③



<学びに向かう力、人間性等>

- ・できた作品を、保育教諭が壁に貼っている姿を見つめる0歳児。前のめりになって、指差しをしている子もいた。自分や友達の作ったものを見て、喜んでいた。

<気づきや感想>

- 保育教諭の導入で、絵本やエプロンから出てくる材料に興味を持って、指差しをして楽しんでいる様子が見られた。作り終わった後に、自分の作品が張り出されている様子を、真剣に見ている姿が、以上児の活動後の姿に重なった。また、保育教諭と一緒に材料をもらいに行ったり、活動に取り組む姿を見て、一緒に行ったりすることで、子どもたちにとっても安心感があり、のびのびと活動することができるのだと学んだ。

* 考察 *

今回の振り返りシートを活用することで、3つの資質・能力の視点で保育を見るのが、とても難しいと感じた。しかし、自分なりに撮った写真を振り返り、その時の子どもたちの動きや発言などを考えることで、写真の様子が3つの視点のうち、一つだけに当てはまるというわけではないと強く感じた。振り返りシートは、子どもたちの育ちを見直すきっかけとなり、今後も活用して深めていきたいと思った。

(4) 2歳児の保育から、3つの資質・能力の視点で子どもの育ちを考える。

この保育参観では、3つの視点から「子どもの育ち」を考えた。「知識・技能の基礎の視点」では、のりの使い方について保育者の話を聞き、前聞いた話を思い出しながら、ちょんちょんと手にのりをつけていた。「思考力・判断力・表現力等の基礎」では「折り紙を折る時、二つの耳を作るために色々な角度に折っていた。「学びに向かう力・人間性等」では、「折り紙を折る時、保育者の折り方や話を聞いて、一人で裏返して折ることができていた。」などの子どもの育ちを見取ることができた。

- 本時の活動：折り紙で「ねこ」を折ろう (R2. 2. 5)
- ねらい：折り紙に折り目をつけようとし、形を作りあげていく過程を楽しむ。(表現) のりを適切に使い、貼ることができる(表現)
- 内 容：三角の折り方を使って、ねこの形を折る。のりの分量に気を付けながら、台紙に貼り付ける。ねこの顔や周りにクレパスを使ってお絵かきをする。

【振り返りシート：折り紙で「ねこ」を折ろう (2歳児：17名)】

1 研修テーマ及び内容



幼稚園教育で育みたい資質・能力の視点から子どもの育ちを考える。

2 研修内容

子どもの姿を資質・能力の3つの視点から捉え、どのような育ちがあるか考えよう。

3 研修の振り返り

資質・能力	子どもの姿
知識及び技能の基礎 遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか。	<p>※気付いたり分かったりできたりしている姿の写真</p> <p>・のりの使い方について保育者の話を聞き、前聞いた話も思い出しながら「ちょんちょん」と手にのりをつけていた。</p> <p><保育者の関わり・環境設定> 保育者が実際に「ちょんちょん」と言いながら、手にのりをとって説明をしていた。</p>

資質・能力	子どもの姿	
思考力・表現力・判断力等の基礎 遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。	※考えて試したり工夫したり表現したりしている姿の写真 	・折り紙で2つの耳を作るためにいろいろな角度に折り紙を折って考えていた。 <保育者の関わり・環境設定> 子どもたちから見える位置に折り紙（見本）を貼っていた。
学びに向かう力・人間性等 心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか。	※意欲的に取り組んだり協力したり活動を楽しんでいる姿の写真 	・折り紙を折るとき、保育者の折り方や話を聞いて、一人で裏返しにして、折ることができていた。 <保育者の関わり・環境設定> 保育者が一つ一つの折り方をわかりやすく説明し、個々にも声をかけていた。

考察

保育の仕方だけでなく、3つの視点から子どもたちを見ることで、「こういう声かけのときに、こういう子どもの動きがあった」などと子どもたちのいろいろな動き・つぶやきを知ることができた。

(5) 3つの資質・能力と10の姿の関連を学ぶ（年長児：29名）

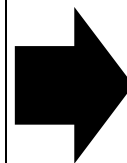
（☆指導案は研究紀要に掲載）

(6) 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』から見た子どもの姿

～資質・能力の3つの柱による～【(5)の保育実践をもとに作成】

幼児期の教育		小学校教育
3つの柱	『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』から見た子どもの姿	教科等
知識および技能の基礎	(B・C・I) 自分の髪型を作品に表現するために、用意された素材の中から使えそうなものを自分で選んだり、友達にアドバイスをもらったりして最後まで自分で作る。 (D・F) 共同の素材や道具の使い方が分かり、みんなで大事に使う。 (D・I) 素材や道具を友達と譲り合ったり使い方を教え合ったりして使う。 (F・B) 素材の性質や仕組みに気付き、考えて使うようになる。 (F・J) 友達の表現の仕方や、素材の使い方に関心を動かされ、その表現を模倣したり、感じたり考えたりするようになる。	国語 算数 生活 音楽 図画工作 体育 道徳 特別活動
思考力・判断力・表現力等の基礎	(F・J) 自分の顔写真を見て、どんな髪型が合うか素材の中から選択する。 (F・J) これまでの経験から、完成図を予想したり、新たな方法を考えたりしてよりよい結果となるように試行錯誤する。 (F・B) 使い慣れた道具の特性を生かしたり、様々な素材の使い方を工夫したりしながら、目的に応じて使いこなす。 (D・F・H) 用意された素材をどのくらいの量を使えばよいか、考えて使用する。 (I・J) 使用したい素材の使い方を友達に相談し、アドバイスをもらうことで表現することを楽しむ。	国語 算数 生活 音楽 図画工作 体育 道徳 特別活動

スタートカリキュラム





(☆全体の表は、本園研究紀要に掲載)

- | | | | |
|--------------------------|--------------|------------------|------------------|
| (A) 健康な心と体 | (B) 自立心 | (C) 協同性 | (D) 道徳性・規範意識の芽生え |
| (E) 社会生活との関わり | (F) 思考力の芽生え | (G) 自然との関わり・生命尊重 | |
| (H) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | | | |
| (I) 言葉による伝えあい | (J) 豊かな感性と表現 | | |

*** 考察 ***

本時の保育を分析した、7『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』から見た子どもの姿の記述を、どの姿と受け止めたかを数量的に捉え、多い順にあげると、次のとおりになった。


 ○「思考力の芽生え」・・・8 ○「自立心」・・・7 ○「豊かな感性と表現」・・・7 

これらのことから、「ねらい及び内容」が具体的に「子どもの姿」として表出したものと理解され、指導案作成時に掲げた「①思考力の芽生え」「②豊かな感性と表現」「③協同性」が反映した子どもの育ち（実現した資質・能力）であると推察できる。

7 研究の成果と課題

<u>これまでの研究で明らかになったことやさらに研究したいことは次のとおりである。</u>	
成 果	<p><u>理論研究・振り返りシート等からまとめる</u></p> <p>(1) 日常の保育や遊びから、振り返りシートを活用して3つの資質・能力を発揮しているエピソードをまとめたり、資料をもとに相互に話し合ったりしながら、自分なりの「見方」を深めることができた。</p> <p>(2) 資質・能力の視点で見直し、加筆された5領域を「主体的・対話的で深い学び」の視点で日々の保育を実践することで育まれる子どもの育ちが、資質能力であり、10の姿であることが分かった。</p> <p>(3) 日々の5領域に基づく保育を通して育まれる資質・能力及び、幼児期の終わりの具象的な子どもの姿（育ち）、そして保育の改善の視点「主体的・対話的で深い学び」は、切り離すことができない強い関係性があると理解することができた。</p> <p>(4) 実践における幼児の具体的な姿から、改めて捉えることで、子どもの育ちを3つの資質・能力から理解することができた。</p> <p>(5) 実際の保育では、1つの資質・能力を目指して育むのではなく、生活や遊びの中で3つの資質・能力は複数の資質・能力として、総合的に育まれていくことが分かった。</p> <p>(6) 資質・能力の視点から見た子どもの育ちは、日々の保育で育まれる子どもの育ちである。資質・能力も10の姿も日々の保育の過程で表出される。</p>
課 題	<p>(1) 「10の姿」を活用することで、子どもたちの育ちを考えたり、保育の質の向上を図ったりすることができるのではないかと考えられるので、さらに研究を深める。</p> <p>(2) 資質・能力に向かう子どもたちの育ちは、主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた日々の保育を実践することが大切であるということ踏まえ、主体的・対話的で深い学びについて実践的な研究を進めていきたい。</p>

(☆本園研究紀要を10pに編集したため、文章・図・表等削除・縮小した部分は研究紀要に掲載)

 次の項目等については、本園研究紀要にすべて掲載しているのでご参照ください。

- | | |
|--|------------------------------|
| ☆5領域の改善・充実の表(9)p | ☆資質・能力と5領域との関連表(10)p |
| ☆草牟田幼稚園園内研修実践プログラム(13)p | ☆各学年指導案(15, 18, 21, 22, 24)p |
| ☆幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から見た子どもの姿(育ち)の表(27)p | |
| ☆園内研修の在り方についての考察(30)p | |
| ☆写真ポートフォリオの実践例(31, 32, 33)p | |
| ☆資質・能力(10の姿)の視点からの子どもの育ちの一覧表(34, 35)p | |
| ☆5領域の子どもの育ちの一覧表(36, 37)p | |